

利尻・礼文両島におけるヤマショウビンの記録

疋田英子¹⁾・小杉和樹²⁾・佐藤雅彦³⁾

¹⁾ 〒097-0011 北海道稚内市はまなす 1-6-10

²⁾ 〒097-0401 北海道利尻郡利尻町杵形字富士見町

³⁾ 〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

Records of Black-Capped Kingfisher, *Halcyon pileata* (Boddaert, 1783), in Rishiri and Rebun Islands

Hideko HIKITA¹⁾, Kazuki KOSUGI²⁾ and Masahiko SATO³⁾

¹⁾ 1-6-10, Hamanasu, Wakkanai, Hokkaido, 097-0011 Japan

²⁾ Fujimi-cho, Kutugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan

³⁾ Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

Abstract. Two records of *Halcyon pileata* (Alcedinidae, Coraciiformes) from Rishiri and Rebun Islands were reviewed with additional two new records in 1998 and 2006.

筆者らの一人である疋田は2006年6月4日にヤマショウビン *Halcyon pileata* (Boddaert, 1783) の死体を礼文島南部の礼文町大字香深村知床のカランナイ岬からビーサシノ崎に向かう海岸にて偶然発見した。これまでも利尻島および礼文島では本種の日撃記録および保護記録があったが、標本が礼文島から得られたのは今回が初めてのことであった。そこで過去の両島におけるヤマショウビンの記録とともに本個体の記録をあわせて報告することとした。宮本誠一郎さん(レブンクル自然館)、今野怜さん(帯広市)には本種の記録などについて様々な情報を提供していただいた。お名前を記して感謝の意を表す。

ヤマショウビンは赤い嘴と黒い帽子をかぶったような頭部の色、そして背から尾にかけての光沢をもった紺色がよく目立つ大型のカワセミ科の一種である。その独特の色彩から識別は容易であるが、北海道では迷鳥とされ、これまで渡島大島、室蘭、小

平、然別湖(鹿追町)、東雲湖(上士幌町)、浜頓別、利尻島、天売島からの記録が報告されている(藤巻, 2000; 寺沢, 2000)。

利尻・礼文両島における記録は未発表記録を1例含めるとこれまでに3例あり、詳細は以下のとおりである。観察された時期は3例とも5月下旬であった。

1. 1971年・利尻

両島におけるヤマショウビンの記録としてはこれが初めての記録であり、唯一の保護記録と考えられる。1971年5月30日の写真付きの『印度生まれの"珍鳥"』と題された新聞記事によれば(宗谷新聞社, 1971)、同年5月28日に張間敏一さん(利尻町杵形種富町)の自宅に『見なれぬ鳥が舞い込んだ』。保護されたこの個体は鴛泊公園管理事務所の調べによりヤマショウビンと判明し、宗谷支庁を通じて、札幌市立円山動物園に保護収容することとなり、同月29日に鴛泊空港から飛行機で稚内に運ば



Fig. 1. A black-Capped Kingfisher founded on 4 June 2006 at Rebun Island. Photo by H. Hikita.

れ、翌30日に同動物園に引き渡されることになったという。その後、本個体がどのような経過をたどったのかについては筆者らの知る限り不明のままである。

2. 1998年・利尻

筆者の一人である小杉による未発表記録であり、観察年月日は1998年5月26日のことであった。前日まで荒れ模様の天候であったが、観察日当日は穏やかな天候となり、午前8時頃、利尻町仙法志市政泊の道道香形仙法志駕泊線の道路脇にある電線に1羽が止まっているところを確認することができた。車を停めて観察をしていたが、すぐに飛び立ってしまったため、残念ながら撮影には至らなかった。

3. 2004年・礼文

2004年5月24日、礼文町大字船泊村西上泊の通称「スカイ岬」において水野智加子さん（帯広市）は見慣れない鳥1羽を発見した。その後、野鳥に詳しい宮本誠一郎さん（レブンクル自然館）とその特徴について電話でやりとりをした結果、ヤマショウビンであることが判明した（宮本、私信）。本記録（レブンクル自然館、2005）が礼文島における本種の最初の記録と考えられる。ヤマショウビンの独特な色彩の特徴などから誤同定されることはないと思われるが、この記録も残念ながら写真記録が残されていない。

今回礼文島で発見されたヤマショウビンは、大きな礫によって構成される幅10mほどの平らな海岸と急斜面の崖が接する境界付近で死亡個体として見つかった。境界付近は、波が海岸を越えて崖まで打ち寄せられることがあるのか、漂着した流木やペットボトルなどのゴミが散乱しており、礫の間には目立つような高茎草本はなく、見通しがよい場所であった。崖の急斜面からは幅30cm程度の小さな水の流れが海岸部のこぶし大の小さな礫の合間をぬって流れ出ており、本個体はその水の流れに腹部を浸すようにうつ伏せの状態で見発見された（Fig. 1）。ただし頭部は反転し仰向けの状態にねじれ、既に捕食の跡と思われる肉の露出が見受けられた。しかし、羽毛が周囲に散乱することもなく、資料としての価値があると判断した疋田は、携行していたビニール袋に収納後、一旦、レブンクル自然館において冷凍保管を依頼し、その後利尻町立博物館に宮本誠一郎さんの手で届けられた。

同館で本個体の状態を検討したところ、捕食によるものと思われる損傷が胸部背面から頸部腹面にかけて大きく広がり、背面では胸部の筋肉や肩甲骨、頸部では気管が露出し、腹部のはがれた表皮と筋肉の隙間には侵入した双翅目によるものと思われる卵塊が2つ確認された。また、羽毛の脱落は傷口全般にあたる上背から喉にかけてのものと左翼の雨覆が顕著であったが、その他の部分の保存状態は比較的良好で、筋肉や内臓の腐敗もそれほど進んでいない

ことがわかった。そこで本個体は仮剥製標本として同館に保管されることとなった。計測値(単位mm)は以下のとおりで、雌雄は不明であった：全長295、尾長85、露出嘴峯長64、跗蹠長16、最大翼長135、標本番号RTMB383。

参考文献

- 藤巻裕蔵, 2000. 北海道鳥類目録 改訂2版. 帯広畜産大学野生動物管理理学研究室. 83 pp.
- 真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥590. 平凡社. 655 pp.
- 日本鳥類目録編集委員会, 2000. 日本鳥類目録. 改訂第6版. 日本鳥学会, 京都. 345 pp.
- レブンクル自然館(編), 2005. 礼文島野鳥リスト. 礼文島の野鳥, vol. 11. 12pp. 自刊.
- 宗谷新聞社, 1971. 印度生まれの"珍鳥". 日刊宗谷(5月30日). 宗谷新聞社.
- 寺沢孝毅, 2000. 天売島における月別鳥類出現リスト. 寺沢孝毅(編), 北海道島の野鳥. 144-149 pp. 北海道新聞社. 札幌.
- 高野伸二, 1995. フィールドガイド日本の野鳥・増補版. 日本野鳥の会. 343 pp.